

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800238		
法人名	医療法人 輝栄会		
事業所名	グループホームトリニテ松崎		
所在地	福岡市東区松崎2-7-21		
自己評価作成日	平成25年2月8日	評価結果確定日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&ji_gyosyoCd=4090800238-00&PrEfCd=40&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員とご利用者のコミュニケーションをとる機会がおおいにあり、いつも明るく楽しくご利用者の要望も聞きやすい環境にあると思います。その中で、ご利用者の昔の情報や職歴等を考慮し、レクリエーション等に活かすよう心掛けております。ご家族との交流の機会を大切に、レクの参加の声掛け等、面会がし易く一緒にそのご利用者を支える体制・環境作りにも努めております。当ホームは医療法人であり、母体が福岡輝栄会病院なので体調の管理もしっかりとした医療体制でフォローし、要介護5となってもある程度の医療ニーズが必要な方でも介護できる体制を構築しております。小規模多機能型居宅介護やシニアハウスが併設しており、居宅サービスでは介護困難な方がそのまま同じ建物のグループホームに移行すれば、環境変化による認知症の進行の心配も少ないと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域、医療、福祉」という3つの意味が「三位一体」を表すトリニティに込められ、「グループホームトリニテ松崎」と名付けられた。医療法人福岡輝栄会病院を母体とし、「この病院にかかる全ての人々が、健やかで明るい日々でありますように、輝かしく栄えある人生でありますように」と言う理念の下、開設から今年で1年を迎える。小規模多機能施設とサービス付き高齢者住宅が併設されており、日頃から行き来を自由にして、在宅生活が困難になった方でも、次のステップとしての移行が安心できる環境である。近くには多々良川の河川敷があり自然の環境にも恵まれている。最近では、毎週日曜日を、わがままが聞ける個別レクリエーションの日として特に力を入れて取り組んでおり、一対一で外出したり、買い物や、知人のお見舞いなど、一人ひとりの希望がかなえられるように努めている。目の前に公園があり、日常的に地域の方との交流も盛んで、夏祭りに参加したり、公民館活動に参加したりもしている。これからも事業所名のとおり、「地域、医療、福祉」の三位一体の活動の発展が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に唱和し、理念の共有・実現に向けて日々取り組んでいる。	法人全体の理念を職員全員で共有し、名札の裏にも記載されている。日頃から実践に繋がれるように、サービスに関連させて振り返り、職員同士でも注意しあえる関係で日々取り組んでいる。	フロア内とスタッフリビングに掲示され、理念の共有・実現に取り組んでいるが、今後は事業所全体での話し合いをもちながら、利用者の思いをくみ取り、グループホーム独自の理念作りに取り組まれることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月毎の地域運営推進会議の開催と、地域行事(夏祭りやグランドゴルフ等)に参加してきた。4月にはウォークラリー、5月には地区の運動会に参加予定。	地域の方が利用できる、多目的ホールが併設されており、生け花教室などが開催されている。日頃から利用者と一緒に、近くの飲食店やパン屋に買い物に出かけ、顔見知りになったり、グラウンドゴルフの道具を地域に寄贈してもらい参加の取組も行っている。中学生の職場体験も受け入れており、今後は訪問入浴の勉強会に地域の方を案内する予定である。	開設時から地域との関わりは深く、日常的な交流はなされているが、より一層地域貢献のために、自治会に加入し、地域の一員として地域の運営のお手伝いや、ごみ集めなど自発的に取り組んでいかれることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方より要請を受け、認知症の勉強会を開催した。来月には入浴について勉強会を地域の方向けに予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者やご家族からの要望を聴き、実践してきた。	自治会長、地域包括、民生委員、利用者、別事業所からも参加があり、地域防災の取り組みに関してアドバイスをもらったり、事業に関して積極的に話し合いがなされている。議事録は参加者だけでなく、家族に対しても郵送で行い報告を行っている。	会議への取り組みは活発になされているが、議事録を閲覧できる仕組みがなかったので、今後は会議情報を共有していけるような取組が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加頂き、都度の報告をしている。市が開催している研修に積極的に出席し、交流に努めている。	介護保険の更新時などには窓口に訪問し、相談事などでも市の担当課と連絡がとられている。市のグループホーム協議会や研修などでも交流があり、相談もしやすく協力体制が出来ている。区の担当や相談員などの訪問もあり連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けて取り組んでおり、現在のところ身体拘束「0」である。研修を職員間で行い、身体拘束についての知識向上に努めた。委員会の設立を進めている。	安全のためフロア玄関の施錠はしているが、外出の希望があれば見守り、付添により外出している。居室では、夜間のみ必要な方にだけ人感センサーを使用している。言葉かけなども日頃から注意しており、今年からは身体拘束・事故防止委員会を組織し、毎月事例報告や勉強会をしていく計画である。	安全のため玄関施錠がされているが、自治会や近隣住民との協力によって、今後は安全管理と拘束をしないケアのバランスに配慮された運営がなされていくことに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ちょっとした傷があった際も事故報告書を作成し、考え得る可能性を導き出し、再度傷を負わないよう検討している。		

自己・外部評価表(GHTリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修の参加を実施。実際に権利擁護事業を活用しているご利用者もいる。	日常生活自立支援事業を活用されている方もおり、市が主催する外部研修にも参加している。必要な際の窓口は管理者が行い、関係機関や専門家とも連携して支援を行っている。	管理者をはじめ、制度の理解をすすめているが、必要な際に、利用者や家族に説明するために制度紹介のパンフレットや資料などが準備されることが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にかかる費用や毎月の費用は料金表を用いて説明。オムツ代や病院受診等のその他の費用についても説明を行っている。退居となる際の説明も行い、次の受け入れ先の手配等支援していくこともお話しする。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族要望や希望時は管理者日誌に記録し、運営推進会議にて報告。会議録はご利用者ご家族皆様へ配布している。	家族からの要望によって利用者ごとの日記をつけるようになり、請求時には一筆箋をつけて日頃の状況を報告している。面会時など日常的に要望を聞き取って、運営推進会議でも外部に情報を表している。出された意見は申し送りで話し合い、ケース記録に落とし込んで口頭で報告している。毎月新聞を発行して全体の報告なども行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を行い、職員の意見を集約し、業務改善している。	月2回理事長も参加しての幹部会議があり、ユニットごとにも職員会議を行っている。会議でとりあげて欲しいテーマをあげられるため、参加できなくても意見を発信し、議事録によって情報共有している。日頃から管理者に要望を出して申し送り、職員全員で改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「目標管理シート」を用い、職員1人1人に目標を持ってもらい、それに向けて実践していけるよう図らっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は男女とも就業しており、年齢の幅も広い。管理者から職員への定期的な面接にて各々の目標や豊富について聴取している。自己実現に向けてのアドバイスを行っている。	幅広い年代の職員が、経験や知識を共有して指導しあい、ケアに対しての意識も高い。学習意欲も高く、相互に注意しながら、ベテランスタッフも教育・指導の役割をもちながら業務にあたっている。採用面接も偏りのないよう複数人で行なっている。シフトも希望を考慮しながらお互いに協力し、休憩時間も確保されている。資格の取得や研修も業務として参加できるなど働きやすい環境が作られている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職場内の会議にてプライバシー保護に関する指導を行った。今後の研修にも参加予定としている。	市が主催する外部研修などに参加した職員が、人権教育に関して学んだ項目などを伝達して共有している。内部研修も行い、職員の理解を深め、日頃から注意・指導も行っている。	

自己・外部評価表(GHTリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修の参加や施設外研修へ積極的に参加している。他施設への研修も実施してきた。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への挨拶や電話での意見交換を行っている。他施設への研修に赴いたり、外部研修に参加し他施設職員と交流している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当職員をつけ、ご利用者とのコミュニケーションの中でニーズを引き出すよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当職員をつけ、ご利用者やご家族との交流に努め、ご意見を聴きやすい体制を整備している。月に1回、利用報告を兼ね一筆箋を送付している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの見直し時はご本人、ご家族の要望を聞き、必要に応じて反映させている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	皆で食事の準備や片づけをしたり洗濯物畳みをしたりと、共同生活ができるよう支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒にホーム行事に参加して頂いたりしたことあり。常に面会がしやすいよう声掛けしたり相談支援を行っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのかかりつけ病院への受診支援を行ったり、連絡ノートを活用し病院との連絡調整を行っている。	親戚や知人などの来訪も気軽に受け入れたり、電話をつなぐ支援も行っている。毎週日曜日を個別レクの日にあて、馴染みの公園に行ったり、家族に会いに行く支援をしたり、芝居を見に行ったりもしてきた。希望があれば外泊の支援なども行っている。	個別レクによって個人の要望にも対応しているが、利用者ごとの友人関係や馴染みの関係をさらに細かく把握していくことで、よりいっそうサービスを充実させていくことが期待される。

自己・外部評価表(GHTリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別で行うレクリエーションと、集団で行うレクもあり、クイズや談笑等皆で楽しめる雰囲気作りで努めている。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もいつでも電話相談等しやすいよう声掛けしている。入院時は病院への訪問をし、情報収集をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメント作成と、「暮らしの情報」を収集し、昔の習慣や趣向等を把握し、日々のケアに導入できるような工夫している。	センター方式の一部を活用して、本人や家族から要望を聞き取っている。初回面談時と、プランの見直し時にアセスメントを取り直し「暮らしの情報」シートで趣味や習慣も把握している。担当職員が中心となって、利用者がリラックスした時を見計らってコミュニケーションをとったり、意志疎通が難しくければ関係者とも協力して関わっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「暮らしの情報」の活用と、入居前のアセスメント作成にて行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録の他、1日の行動表を作成している。また、伝達ノートを活用し情報の共有に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを検討するケアカンファレンスに多職種が参加している。	ケアプランは半年ごとに、モニタリングの総括をもとにして定期的に見直している。毎月のユニット会議でも必要があれば随時ケースを取り上げ、家族の意見なども反映させる。職員は1対2の担当制でモニタリングなども受け持ち、ケアプランの素案も責任をもって作成している。記録とケアプランは一つのファイルにまとめることで全員が共有できるように管理されていた。	各職員が責任をもってプランまで担当しているが、今後は担当者会議などに、本人・家族の参加や照会をおこなっていくことで、よりいっそうのチームケアが図られることに期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り等を使用し、職員間の情報共有を行っている。		

自己・外部評価表 (GHTリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その日の天気や気候に応じて、ご利用者に希望を聞き、散歩や近所の買い物等支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のケーキ屋さんやパン屋さんへ買い物へ行くこともあり。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院で受診にかかる送迎をして頂いている。また、病院との連絡ノートを活用している。	2週間に1回、提携医の往診があり、施設内で診察を行っている。看護師同士の会議で情報を共有し、医師への報告も看護師が主に担当している。専門医には家族介助で通院するが、必要な時は事業所からも支援を行い、事業所での受診時は家族に電話で毎回報告しケース記録にも落とし込んでいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム職員として看護師を配置し、協働して支援にあたっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院であり、入院治療が必要な際はご家族やかかりつけ病院の紹介を受け、入院可能である。情報の連携も取れている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向によりホームで終末期の生活を希望されている方がいる。対応方法をマニュアル化し、柔軟に緩和ケアができる体制を構築している。	事業所の方針としては、希望があれば積極的に受け入れる方向で、具体的な受け入れの体制や方法に関してはマニュアルによって対応していく。母体が医療法人であるため、年中無休で、救急の受け入れも可能である。終末期ケアに関する研修も行い、職員の理解を深めている。	事業所方針を定めているが、実際にケースが発生した場合に備えて、意志確認のタイミングや、マニュアルに定めた人員体制の確保、職員教育、看護師のオンコール体制などの準備が進められていくことが望まれる。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設後間もなく、1次救命処置の研修を行った。今後も一次救命処置の研修を定期的に関催予定としている。		

自己・外部評価表(GHTリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの整備と避難訓練を実施している。避難指定施設となっており、非常食等、備蓄も備えている。	90名分の備蓄物も3日分確保し、地域にも役立つようにAED設置、貸し出しなども行い、非常時の避難施設としても開放している。防災訓練は去年は1回、今年度は2回を計画しており、次回以降は消防署も合同で夜間想定も含めた訓練を行う予定である。自治会長を通して地域への呼びかけも行い、職員が消防団にも所属して協力体制を作っている。	地域との相互協力の元、災害対策がとられているが、新入職員に対しての非常時の避難行動の理解をより深めていくために、定期的な学習や周知の機会がもたれることが今後期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症によるその場にそぐわない言動があった際も受容し、安心して頂けるような声掛けをしている。	利用者ごとの状態を把握して、相手を否定せず受容する姿勢で、日頃の申し送りや会議で事例を話し合っている。母体法人との合同研修や外部研修によって接遇やプライバシーに関しても学習し、職員の理解を深めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての援助に対し声掛けを行い、了承のもと支援をしている。本人の要望があればケアプランへ明記する仕組みとしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝昼夕の食事と、昼間の活動、夜間の睡眠と、生活のリズムを整えるよう働きかけを行いながらもそれぞれの生活のペースは乱さず楽しく生活できる環境の提供をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の自己選択を行っていただいている。化粧も希望により支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にできる範囲での食事準備や片付けを職員と一緒にしている。	メニューと食材が配達され、職員によって調理されている。準備など出来る事は手伝ってもらい、職員も同じものを一緒に食べ、会話も楽しみながら和やかに食事されていた。行事食や誕生会など、希望があれば食べたい物もメニューに反映させ、月に1、2回は外食や出前などをとることもある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	簡単な調理でできるよう、調理されたものを業者より仕入れている。メニューはバランスがとれており、嚥下能力による食事形態への変更も職員が手を加えて行っている。		

自己・外部評価表(GHTリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、自立支援を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が無い方に対し、時間を見て声掛けや介助を行っている。入所者全員トイレでの排泄をしている。	排泄チェック表をつかってリズムを把握し、こまめにトイレ介助を行うことで、トイレでの排泄を促しており、無理強いせず、気分をのせるような声かけをしている。連絡ノートも使って利用者ごとの傾向を把握し、申し送りと記録で情報を共有している。家族や医師とも協力して、リハパンから布パンツに改善し、本人・家族の負担軽減にもつながってきた。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方へは水分補給を強化したり、腹部マッサージや日々の運動に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	都度入浴の声掛けを行って本人了承のもと浴室へ案内している。	週3回程度、午前からの入浴を行っているが、希望があれば毎日や夕方入浴にも対応し、毎回お湯を張りかえて清潔を保っている。必要があれば機械浴も行え、脱衣所には暖房も備え付けられ安全面も確保されている。使い慣れたシャンプーなども希望があれば使え、拒否もなく楽しんで入浴されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の希望がある際は自室にて休んで頂く等、場面に依りて対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者それぞれの病気や飲んでる薬が分かるよう薬情等資料をまとめている。基本職員はそれらの情報を熟知し、支援にあたっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントや暮らしの情報を収集し、生活歴に合わせたお話や、月1回は外食等食事会を開催するが、ご利用者の希望を聞いてメニューを決定している。		

自己・外部評価表(GHTリニテ松崎)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援も都度行っており、ご家族の参加も自由にして頂いている。 ウォークラリーや地域の運動会にも参加予定としている。	外出行事や外食は家族にも案内して、一緒に楽しんでいる。気候のよい日は気軽に散歩など行い、車いすの方や意欲の低い方も声かけを工夫して気分を盛り上げて外出してもらっている。施設前の公園や河川敷、近隣のパン屋など環境もよく、日常的な外出が行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭自己管理をしている方もいる。管理が困難な方に関しては、ご本人とご家族の委任を受けホームにて管理している。その際は金銭出納帳を4半期に1回本人やご家族に確認頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から希望があればホームにある電話を使用できる。年賀状やお手紙も本人の希望により支援し送ることもできる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は気温・湿度の差がないよう調整している。冬場も寒さ刺激や季節感を味わっていただく意味でも外出の希望があれば散歩等も行っている。	リビングには南向きの広い窓があり、開放的で明るさが確保されている。テーブルを中央に、窓際にはソファが置かれ、利用者も思い思いのスペースでゆっくり過ごしている。調度品も季節に合わせたものが控えめに飾られ、全体にやわらかな雰囲気を作られていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同志の食卓テーブルの配置などに留意している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家具の持ち込み可であることを説明し、使い慣れた物を持ち込んで頂いている。	介護ベッドが事業所によって備え付けられ、クローゼットもあり、居室は広めに確保されている。机やタンス、ソファなども持ち込まれ、部屋によって利用者の個性が出ている。テレビや観葉植物もあつたりと、それぞれの空間を楽しんでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を見定め、場面に応じた会話ができるように声掛けを工夫している。		